

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	株式会社厚生会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果市町提出日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470501574-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設に、協力医療機関である、ゆり形成内科整形があり、緊急時にもすぐに受診ができ、医療度の高い利用者にも安心して過ごしていただけるような体制になっている。誕生会や秋の味覚祭等のレクリエーションや各種研修会を通じて、入居者、職員、地域の方々との交流を深めていくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、津市の街中で近鉄道路沿いに立地し、また徒歩5分以内の位置に食品スーパーや大型衣料品店があり、交通や生活の利便性が高く家族が訪れやすい。敷地内に母体会社が経営する病院と有料老人ホームとデイサービスセンターが併設し、事業所は建物の2階に2ユニットがある。利用者は日課として階下の病院へリハビリに通い、スタッフと会話をし身体を動かして心身のリフレッシュを図っている。医療ニーズが高い利用者が多く、医師・看護師・リハビリ職等、医療職と日常的に連携し、利用者の健康状態やケアの方法についてトータル的に学べるのが事業所の利点であると職員は捉え意欲的である。管理者は常に現場にいて利用者や職員と行動を共にしているため、状況の把握や適宜の対応が取りやすく、職員のチームワークも良く和やかである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識して仕事を行っている。	「心の癒しを介護の心得とします」の運営理念に基づき、具体的な方針を9項目示している。内容は個人の尊厳、プライバシーの尊重、家族や地域との絆重視、能力活用、自立支援等介護の基本を網羅したもので、日常的に優しい言葉がけと利用者の思いを尊重して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加してもらうことにより、地域の人との交流を深めている。	地域との交流は年々困難になってきているが、毎年津まつりの際に唐人踊りや獅子舞やしゃご馬等の行列の人達が事業所を訪れて、ホール内で舞を披露して利用者や交流し、ともに祭を楽しむ機会を持っている。	地域で開催される認知症家族の会の集いや認知症カフェ、予防教室等に管理者や職員が参加して、地域の関係者や住民と交流する機会を持ち、事業所とのつながりを築いていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただき、事業所の取り組みを報告することにより、地域の人に取り組みを知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告や話し合いを行い、事業所がよりよくなるよう努めている。	毎回、市介護保険課・包括支援センター・自治会役員・民生委員・家族に会議の案内を通知し、出席できるメンバーで開催している。5月には併設事業所の言語聴覚士による健康教室を兼ねた内容で、日常のケアに活かすことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市役所の方から情報を聞いたり、事業所の取り組みを報告している。	市介護保険課へは、利用者の要介護認定更新申請の代行や推進会議の案内を届けに行っている。高齢福祉課へおむつの給付を受けている利用者が、家族が不在の際に事業所への配達を依頼して実現した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束で抑制をせず利用者がけがや危険なことに合わないよう安全に生活ができるようにしている。	年間研修計画を策定し、毎年「身体拘束・虐待防止について」の研修会を開き、全職員が学習する機会を設けている。過去に徘徊が止まない利用者の対応に苦慮し、職員が熱心に話し合った経験を活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安心で安全に暮らしていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合いを行い活用できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者等が利用者様や家族様に契約等に関する事項を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見を管理者や計画作成担当者が聞いている。 入口に意見箱を設置し、意見を記入していただくことにより、反映させるようにしている。	面会に訪れる家族が多く、面会簿にメッセージ記入欄を設けて意見が聴けるように工夫をしている。運営推進会議に出席出来ない家族にアンケートで意見を伺ったら、職員の名札着用の希望があり実行している。管理者は家族支援を重点課題としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や計画作成担当者が、職員の意見を聞き反映させている。	職員は運営推進会議や職員会議等に出席して意見を述べている。日常的に管理者は、利用者の傍にて職員と共に行動しているため、随時、職員の意見を聴き運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や計画作成担当者が職員個々が向上心を持って働けるよう就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、施設内外の研修等を受ける機会を設け学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修や勉強会、他施設見学の機会を設け、情報交換や交流を行うことによりサービスの質を向上させていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時や本人の実調等で本人の困っていることや不安なこと、要望等を聞き取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様等から困っていることや不安、要望等を聞き、信頼を得るように		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様から考えや思いを聞き、他のサービスの利用を検討した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常に職員間で申し送り等を通じて、利用者の状況を伝え、日常生活動作に応じた手助け、協力をしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やEメール等で近況を伝えることにより、情報の共有を図り、家族様とともに本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を定めず、気軽に来所していただけるように努めている。(防犯上、19:00～翌6:30までは施錠している。)	入居後しばらくは家族や親戚・近所の人達の面会があるが、月日を経る内に少なくなってきた。入居の際に馴染みの人間関係の情報を把握して、面会者があれば家族に報告し関係性の継続を図るために支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の意見を尊重しつつ、孤立することのないよう、利用者同士が良好な関係を持つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係を大切に、必要な相談等を行い支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	想いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、利用者本人本位を尊重するようにしている。	言葉で自分の思いを発する利用者は少なく、大部分の利用者は職員が常時傍に寄り添い、表情で思いを察して問いかけ確認している。また、併設病院で、リハビリの際にリハ職員が把握した利用者の思いを職員に報告し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等、サービス利用までの経過、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、他職種の職員(主治医、医療関係者等)との情報交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員が作成した介護計画に基づき、毎月モニタリングを実施し、2ヶ月毎にサービス担当者会議を開き、その際に主治医と看護師・リハ職員が必ず出席して健康状態等に応じたケア内容を検討し、3ヶ月毎に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ、業務日誌の活用や送り時等に職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活用し、実践で生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し、利用可能なサービスと連携を図り、柔軟な支援やサービスができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら、安全で快適な暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の希望を大切にし納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が協力医を主治医とし、通院又は往診にて受診をしている。体調不良時には随時受診ができ、24時間医療連携体制を講じている。歯科は協力医による往診、眼科・耳鼻科は家族の協力を得て通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態を把握し、異変兆候がある際は、協力医療機関の看護職員に連絡を入れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、病院関係者と情報交換し、施設内の環境を整え、受け入れられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、家族様等と話し合い、事業所内でできることを把握し、かかりつけ医や協力医療機関と連携し、チームとして支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りに関する指針」を家族に提示して、重度化や終末期の家族の意向を伺っている。延命処置を望まない意向があれば、介護計画に明記している。殆どの利用者は急変時に系列の病院へ入院したり、早い段階で特養へ入所するため事業所で看取りケアを提供したことはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、利用者を非難させる方法を職員は身につけており、自治会長を通じて、自治会住民へ協力を依頼している。	防災責任者を中心に防災・水防計画を作成し、避難訓練と職員の役割分担、非常時通報体制等を明記して、訓練時に全職員に周知を促している。津波や水害時には隣接する有料老人ホームの3階に利用者を避難させることを決め、避難誘導する訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、声掛けや行動に注意し対応を行っている。	自ら意思表示をすることが困難な利用者に対して、職員は傍に寄り添い、利用者を尊重して優しく声掛けをしている。排泄や入浴時の声掛けは、利用者の羞恥心に対して気遣いを怠らず、注意して行うように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように声掛けをし、訴え等を聞き、納得した日常生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、希望に沿った日々を過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを活かし、食事が楽しめるよう努めている。	栄養士の資格を有する介護職員を中心に、利用者の嗜好と栄養を考慮して献立を作成し、職員が交代で買い物と調理をしている。調理専門のパート職員も採用した。誕生会や節句の行事食も楽しく皆で会食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、個々の状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、個々の能力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力や排泄パターン(変動があることに配慮する)の理解に努め自立に向けた支援を行っている	自立している利用者もいるが、大半の利用者に対して、職員が表情や行動で排泄のサインを察してトイレへ誘い、排泄介助や見守りをしている。便秘傾向の利用者が多く、内服薬でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事摂取量を把握し、飲食物の工夫や運動への働きかけまた、医療との連携に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットの個浴にて入浴を楽しんでいただいている。大浴場もあり、希望者にはその都度対応している。利用者の身体状況により機械浴での入浴にも対応している。	通常各ユニットの個浴で入浴しているが、階下のデイサービスの大浴場や機械浴でも入浴ができ、利用者の希望や身体状況に応じて対応している。足浴は毎日実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意見を尊重し、その時々状況に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルがあり、薬効、用法用量等を把握し心身の変化の確認に努め支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かした思考、役割、楽しみごと、気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個人の体調、身体面を考慮し希望に沿えるよう、その都度対応している。	事業所は建物の2階で、窓から景色を眺めて楽しめるが、階下に降りて近くの公園へ散歩に出かけ気分転換をしたり、併設病院の理学療法士が屋外歩行訓練に連れ出してくれる。遠出して白塚漁港の大漁旗や桜や菖蒲見物に行き楽しむ機会も持った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ大切さを理解し、お金の所持、使用を支援している。 希望時、買い物や外出等で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、意向を尊重し、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間で照明の明るさ等を調整し、不快や混乱を招かないよう支援している。	玄関の壁面に津まつりの唐人踊り等の写真が掲示されており、利用者は思い出して楽しめる。明るく陽当たりがよいホールでテレビを観たり、畳スペースで寝転んだり、洗濯物をたたんだりして利用者はリラックスした雰囲気でも過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットホールに畳コーナーやソファを置き、利用者同士が思い思いに過ごせるよう整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただき、備え付けのチェストや床頭台を含め自由に配置することで、居心地良く過ごせるようにしている。	ベッド・布団・クローゼット・床頭台は事業所が設置し、自宅から写真やテレビ等馴染みの物を持ち込んだり、職員が手作りした作品を壁面に飾り居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な移動等ができるように、各所に手すり等の設置がされている。		